

ミヤマカンスゲと ゴンゲンスゲの雑種

大 場 達 之

New Hybrid of *Carex dolichostachya*
var. *glaberrima* and *Carex sachalinensis*

Tatsuyuki OHBA

1983年6月25日に神奈川県植物誌調査会の野外調査で、箱根の外輪山の一つ、三国山を訪れた。その際ブナ林下の道ぞいにジュズスゲに似た見なれぬスゲが沢山あるのに注目し、長谷川義人、高橋秀男両氏と共にかなり多くの標本を得た。

このスゲは葉が軟らかく、幅やや広く、また葉が横ひろがり気味で少しミヤマジュズスゲのような雰囲気もある。しかし稈基の鞘は赤紫褐色の部分があり、また果胞も短かく、雄花や雌花の鱗片にも赤褐色を帯びる部分があるなど、ジュズスゲ類と大分相違している。その後標本を繰り返し見るうちに、これはミヤマカンスゲとオオイトスゲ系との自然雑種ではないかと考えるに至った。一応これをハコネカンスゲと仮称しておく。

ハコネカンスゲのすぐ近くにはミヤマカンスゲが見られ、片親がミヤマカンスゲであることは間違いないと思われるが、もう一方のオオイトスゲ系は、同所で普通なのはイトスゲとゴンゲンスゲで、オオイトスゲはごく少なく、その近くには見当らない。そこでゴンゲンスゲが一方の親であると思われる。このゴンゲンスゲと目されるものは箱根の高所に多く見られるか、針葉林帯に分布する真のゴンゲンスゲとは相違する点もあり、これも検討課題である。伊豆にはミヤマカンスゲとホンモンジスゲの雑種と考えられるイズカンスゲが記録されているが、箱根ではホンモンジスゲは低地、つまり照葉林帯に主として分布し、高所にはまず見られない。ハコネカンスゲの採集地は海拔1050m付近である。

詳細は別に報告したいと考えているが、ミヤマカンスゲと異なる点は葉が軟らかく、幅が3~5mmと狭く地下に斜上する匍枝を出す。稈基の葉や葉鞘が枯れやすく、一部分が帯紫褐色になるなどの点で異なり、ゴンゲンスゲとは、葉が広いこと（ゴンゲンスゲは幅2~3mm）、稈基や花部鱗片に色がつくこと、などである。現地ではミヤマカンスゲに近い形からゴンゲンスゲに近い形までさまざまな個体が見られる。また全般に果の登実の程度が低い。（神奈川県立博物館）

